

修士論文（要旨）  
2011年1月

留学生の図書館利用における図書館の言語支援体制の必要性と課題  
—留学生利用者サービスの向上に向けて—

指導 齋藤伸子 先生

国際学研究科  
言語教育専攻  
207J4003  
石川みどり

## 目次

はじめに	1
第1章 研究の背景と目的	2
1.1 図書館と多文化サービス	2
1.1.1 多文化サービスの発展経緯	2
1.1.2 多文化サービスの定義	3
1.1.3 日本の大学図書館における多文化サービスの位置づけ	4
1.1.4 アウトリーチサービスと多文化サービス	6
1.2 研究の目的	7
第2章 先行研究	8
2.1 日本の大学図書館における留学生へのサービス	8
2.2 大学図書館における留学生の利用状況	8
2.3 大学図書館に対する留学生の要望	8
2.4 日本の大学図書館における多文化サービスの実態	9
第3章	11
3.1 質問紙調査1	11
3.1.1 調査の概要	11
3.1.2 日本人学生と留学生の図書館利用状況の比較	11
3.1.3 留学生の学年別図書館利用状況	15
3.1.4 留学生の出身国別図書館利用状況	19
3.2 質問紙調査2	25
3.2.1 調査の概要	25
3.2.2 学部生と大学院生の図書館利用状況の比較	26
第4章 留学生にとっての図書館多文化サービス	31
4.1 母語によるサービス	31
4.2 わかりやすい日本語による対応	32
4.3 大学図書館職員の役割	32
第5章 提案および今後の課題	34
おわりに	35
参考文献	
参考資料	

## 要旨

本研究は、大学図書館におけるサービスが留学生にとって使いやすいものかどうかを調査し、その結果を多文化サービスの視点から分析、考察したものである。その目的は、留学生が大学図書館のサービスを享受できるように、図書館における言語支援体制を検討することにある。

第1章では、「多文化サービス」の名称の由来、多文化サービスの発展経緯、多文化サービスの定義、日本における多文化サービスに分け、多文化サービスの背景について述べた。

第2章では、先行研究を日本の大学図書館における留学生へのサービス、大学図書館における留学生の利用状況、大学図書館に対する留学生の要望、日本の大学図書館における多文化サービスに分類し、整理した。

第3章では、関東地方にあるA国立大学において2回実施した質問紙調査結果を分析し、考察を行った。

1回目の調査では、①留学生の図書館利用状況と図書館にたいする要望、②図書館利用状況に関する日本人学生と留学生の比較を調査し、2回目の調査では、①留学生の図書館サービスの利用状況と日本語サポートに対する要望、②留学生の本科学士と研究科学生の図書館利用状況に関する比較の調査をした。

この2回の質問紙調査により、(1)自国の本や新聞を増やすこと、(2)論文や情報の探し方を説明してもらうこと、(3)母語による利用案内、(4)漢字に振り仮名を振ること、(5)カウンター職員によるわかりやすい日本語の使用が、留学生が図書館に望むサービスであることがわかった。

第4章で、前述の5点を検討し、母語によるサービス、わかりやすい日本語による対応の面から、留学生にとっての図書館の多文化サービスについて論じる。

わかりやすい日本語による対応については、松岡(2009)とロング(1997)の先行研究をもとに検討した結果図書館での共通語を日本語とすることは、大学図書館における多文化サービスの観点から妥当だと考えた。

第5章で、資料の提供以外の図書館の支援として、留学生に対するガイダンスの工夫・充実、留学生がよく利用する箇所の利用案内の充実、留学生が享受できていない図書館サービスのPRとPR方法の工夫などについて考え、これらの工夫を図書館における日本語支援と捉らえることを提案した。

また、今後の課題としては、留学生の使用している日本語を分析し、留学生に的確なわかりやすい日本語とは何かを検討していくことが必要と考える。

現在、大学図書館は、インターネットを介したグローバル化による変化を感じている。瞬時に情報を得、伝えることが可能となり、留学生はe-mailによる母国の指導教官・同僚・家族との情報交換も行っている。研究室の端末から、自館と他大学や他機関の蔵書検索が可能である。反面、図書館に足を運んでの利用は少なくなっているのが現状である。

これからの留学生に対する図書館サービスは、このような状況の変化を視野にいたした日本語支援が必要であると考えられる。

## 参考文献

- 逸村 裕 (1988)「大学図書館における留学生へのサービスについて—上智大学の場合」『現代の図書館』第 26 巻 4 号.
- 奥山智紀・芳鐘冬樹・顧銘・呉凱・三浦逸雄 (2003)「プロフィール別に見る留学生の図書館・情報サービス利用：東京大学における実態調査の分析から」『名古屋大学附属図書館研究年報』第 2 巻
- 川崎千加 (2008)「多文化サービスの 10 年：大学図書館を中心に」『大学の図書館』第 27 巻 2 号.
- 河村 宏 (1989)「図書館の多文化サービス実態調査(1988)の分析 - 2 - 大学・短大・高専図書館」『現代の図書館』第 27 号 4 号.
- 小林卓・高橋圭子 (1992)「留学生へのサービス実態調査—関東大学を中心に (第 33 回〔日本図書館研究会〕研究大会グループ研究発表)」『図書館界』第 44 巻 2 号.
- 大学図書館の仕事制作委員会 (2006)『知っておきたい大学図書館の仕事』
- 土田大輔・仲山加奈子・西脇亜由子・矢野恵子 (2007)「大学図書館のアウトリーチサービス (2) 外国人利用者サービスの向上に向けて」『図書の譜』第 11 号.
- 日本図書館協会多文化サービス研究委員会 (2004)『多文化サービス入門』日本図書館協会.
- 日本図書館研究会研究委員会 (1990)「1989 年度図書館学セミナー発表 留学生に対する大学図書館サービスの実態調査報告」『図書館界』第 41 巻 5 号.
- 浜口美由紀 (2008)「外国人利用者のための図書館の日本語」『大学の図書館』第 27 巻 2 号.
- 久松薫子 (2006)「大学図書館のアウトリーチサービス—外国人利用者サービスの向上に向けて」『図書の譜』第 10 号.
- 深井耀子・寒川登・山田伸枝 (1991)「留学生の大学図書館利用調査—留学生科目「日本事情」・利用条件・ガイダンス・レファレンス等について—」『図書館界』第 43 巻 3 号.
- 三浦逸雄・呉凱・顧銘・芳鐘冬樹 (2003)「東京大学における外国人留学生の図書館・情報サービス利用の実態—アンケート調査の結果と分析—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第 42 巻.
- 柳瀬吉雄 (2003)「図書館利用者アンケート 1997 (特集 利用者アンケート)」『大学の図書館』第 22 巻 5 号.
- 山田伸枝 (2001)「図書館における多文化サービス—多文化サービスとレファレンス (〔私立短期大学図書館協議会〕全国研修会報告 参考業務とインターネット)」『短期大学図書館研究』第 21 号.
- Stern, Stephen (1991)“Ethnic Libraries and Librarianship in the United States: Models and Prospects,” *Advances in Librarianship*, vol. 15.
- 松岡 洋子 (2009)「多文化社会の「共通言語」構築を目指す—母語社会と共通言語社会の共存のために—」[http://www.momiji.h.kyoto-u.ac.jp/IRC2009/ja/\\_userdata/textes\\_preactes\\_12.pdf](http://www.momiji.h.kyoto-u.ac.jp/IRC2009/ja/_userdata/textes_preactes_12.pdf) (2010 年 12 月アクセス)
- ロング、ダニエル (1997)「緊急時報道における非母語話者の言語問題 —応用社会言語学の試み—」『日本研究』(ソウル・中央大学校日本研究所発行) pp.57-95.  
<http://nihongo.human.metro-u.ac.jp/~long/papers/mergency.htm> (2010 年 12 月アクセス)